

東洋紡株式会社 2024 年度 決算説明会 質疑応答要旨

日時：2025 年 5 月 13 日（火） 8:45～9:30

場所：WEB 形式

登壇者：代表取締役 社長 竹内 郁夫

副社長執行役員 環境・機能材本部長 森重 地加男

常務執行役員 フィルム本部長 工藤 政尚

執行役員 CFO 管理部門統括 斧 泰三

本資料中の将来の業績見通し等に関する記述は、現時点における情報に基づいており、当社として保証するものではありません。実際の業績等は、さまざまな要因により異なる可能性があります。

Q：フィルムの 25 年度営業利益予想について、24 年度 4Q の水準からすると保守的のように見えるが、その理由は？製品価格の改定は織り込んでいるのか？

A：25 年度は、偏光子保護フィルムの生産能力増強のための既存ライン改造に伴う費用の増加を見込んでいるため。製品価格の改定については、包装用フィルム、工業用フィルムともに実施する計画。

Q：ライフサイエンスにおいて、大型投資を実施しているにもかかわらず、25 年度営業利益が 23 年度の水準にしか戻らない理由は？

A：22 年度まであったコロナウイルス関連製品による利益の下支えが無くなったことに加え、設備投資に伴う減価償却費や立上げ費用が先行したため。新機台については、26 年度以降、フルに寄与させることで更なる利益拡大につなげていく。

Q：環境・機能材の業績拡大のペースが当初計画よりも遅れている理由は？

A：不織布マテリアルの収益性が悪化したことや、“バイロン・ハードレン”の中国市場での回復が遅れたことに加え、EV 化減速により VOC 回収装置の販売が減少しているため。

Q：東洋紡エムシー(株)における三菱商事(株)との協業の進捗状況は？

A：BC（Brine Concentration）膜におけるリチウムメーカーとの取組みや、“プレスエアー”における家具メーカーや事務機器メーカーとの取組みなど、三菱商事(株)のチャネルを活用した販売拡大の協業は着実に進んでいる。

Q：近年、フリー・キャッシュ・フローのマイナスが続く中、今後のキャッシュ・フロー・マネジメント方針や配当の考え方は？

A：事業拡大により営業キャッシュ・フローを増加させるとともに、設備投資の絞込みなどにより投資キャッシュ・フローのマイナスが減少することから、フリー・キャッシュ・フローの黒字化をはかっていく。配当については、安定配当の継続を基本方針としており、一定の配当可能利益が確保できていること、今後、短期的に利益を適正水準に戻すことができる目途がたっていることなど総合的に勘案し、据え置きとしている。

以上